「地理歴史（日本史）」の出題の意図

問題はいずれも、①日本史に関する基礎的な歴史的事象を、個別に記憶するのみならず、覚えた事実を互いに関連づけ、統合的に運用する分析的思考を経た知識として習得しているか、②設問に即して、受験までに習得してきた知識と、設問において与えられた情報とを関連付けて分析的に考察できるか、③考察の結果を、設問への解答として、論理的な文章によって表現できるか、を問うています。つまり、歴史的な諸事象について、それがなぜ、どのように起こったかということや、相互の関係や影響にかかわる、理解の深さと論理的表現力を測ろうとしています。

第 1 問は、古代における太上天皇の政治的立場、および天皇と官人との関係について取り上げ、それぞれ時代的な変化を問う出題です。9 世紀前半という時期の特徴をもとに、律令国家が何を目指して、どのように変化したかについて考えてもらうことを意図しています。

第 2 問は、12 世紀末の東大寺再建を通して当時の政治・社会のありかたを問うものです。どのような技術によって再建されたのか、また源頼朝の果たした役割に注意しながら、どのようにして再建が進められたのかに注目することによって、中国との間で人・物の往来が活発に行われていたことや、鎌倉幕府成立の意義を考えてもらうことを意図しています。

第 3 問は、1630 年代のいわゆる鎖国政策について問うものです。問題文から、江戸幕府は統制を強化しながらポルトガル船貿易の継続を図ろうとしたが島原・天草一揆によって路線が変更されたこと、来航禁止に当たり今後ポルトガル船が沿岸に接近する可能性を考慮し大名に周知しておこうとしたことなどに気づいてもらうことを意図しています。

第 4 問は、経済成長と格差是正という共に重要な政策課題についての出題です。市場と政府の関係も、いずれかに注力するのか、それらの両立を図るのかに応じて変わってきました。市場を規制して農民間の格差拡大を抑えた江戸幕府に対し、維新政府は規制を緩和して市場経済の成長力を解き放ちましたが、地主制拡大に見られるように格差も拡がりました。1930 年代、政府は再び規制強化へと旋回します。特に戦時中には、総力戦の遂行とその後処理のために、行政主導で小作農と地主の格差を縮小しつつ、生産力の強化を図ろうとしました。本問は、土地制度の変化を通じ、規制緩和から規制強化への転換の大きな流れを捉える力を問うています。